

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

全ての生徒が安心して学習に取り組むことができるように、全教科で「学習スタンダード」を設定して、授業を展開している。また、SCやSSWを活用した家庭への支援など、教育相談体制の充実を図ると共に、授業内での支援を含めた特別支援教育の充実を図り、学校全体で生徒を支援する体制を整えている。さらに、地域の資源を活用し、体験活動や生涯学習につながるような取組を多く実施している。

【取組2】(A中学校)

今年度、学校で初めての取組として外部会場にて文化祭を開催した。生徒にとっても初めてのことばかりだったが、文化祭当日に至るまでの準備期間は、実行委員会を中心に自発的に練習に取り組む姿が多く見られた。また、コンクール形式にしたことにより、パート練習では互いに声を掛け合う様子も見られ、一体感や連帯感等を意識しているクラスが多かった。また、学校全体としての学校行事だけではなく、各学年の段階に応じて「きずな」を深めることができるような学年行事を計画・実施している。併せて、生徒会や各種・委員会活動においても、より良い学校に向けて自発的に様々な取組を実施している。

【取組3】(B中学校)

新たに不登校を生まない環境整備や、より良い学級集団の構築を目的として、生徒意識調査を実施した。日常的に支援に関わる教職員等も含めて、具体的な支援内容等について検討する研修会を開催した。その後、教員が、授業等におけるグルーピングの工夫や前向きな気持ちになれるような言葉掛けを意識的に行うことで、活動に前向きに取り組もうとする生徒や、他者との関わり方に改善が見られた生徒が増えた。

【取組4】(C中学校)

巡回担当校内の学校では、各学校によって特色があり、生徒が不登校に至るきっかけ等も多岐にわたる。

そのため、生活指導部会等で、改めて「居場所づくり」と「きずなづくり」の取組を中心とした「魅力ある学校づくり」の充実に関する取組の必要性を確認することができた。

併せて、巡回グループ内での好事例や、各校での校内別室の運用方法の違い等を紹介し、より望ましい不登校支援について検討を行った。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（B中学校）

校内で生徒情報を共有するための資料の様式を統一し、生活指導部会や校内委員会等で活用している。

また、学校独自のSSWが行った支援の内容や関係機関の担当者が把握している情報を様式に入力し、各会議において支援内容の充実を図ることのできる校内体制を整えている。

アウトリーチによる支援（A中学校）

長期休業日中に、様子が気になる生徒に対し、本人の意思を尊重しながら学校だけではなく、区の施設も活用しながらSSWが面会を実施するなど、学級担任、不登校対応巡回教員及びSC等が継続的に学校との関わりを感じられるような支援を行った。

校内別室における支援（A中学校）

校内別室支援員だけではなく、様々な教職員と関わる場面を設定することで、安心して登校できる環境の整備を行っている。また、校内別室の整備に関して、利用する生徒の意見を取り入れながらレイアウトを変更するなど、生徒が自己有用感等を感じられる工夫を行っている。また、校内別室では、オンライン学習ツールや映像授業の視聴を含め、自分のペースで学習を進めることができる環境を整備している。定期考査や小テスト等に関する、校内別室での受験を選択できるようにしたことで、学習に対する意欲を向上できるように支援した。



デジタル機器を活用した支援（C中学校）

リーディングDXスクールや生成AIパイロット校として、より多くのツールを活用することができる。

また、不登校の生徒に限らず、必要に応じてクラスでの授業をオンラインで配信し、オンライン上で課題等の提出ができる教科もあり、生徒への支援の充実を図っている。

関係機関との連携（A中学校）

毎週の支援会議で生徒の状況を共有し、関係機関と連携しながら支援を行っている。

また、不登校対応巡回教員が教育支援センターと定期的に情報交換を行うとともに、区の教育研究所や各支援機関と情報を共有し、不登校生徒への支援を実施している。

成果

不登校対応巡回教員が各校の支援会議等に参加することで、各校の取組の中で、不登校生徒への対応や未然防止等を意識するきっかけとなっている。

課題

不登校生徒の進路選択に向け、各校の担当教員と共に、見通しをもった進路情報の提示等について研鑽を続けていきたい。